

被災者と手を携えて

札幌 地域まわる吉岡市議候補

12.11.3

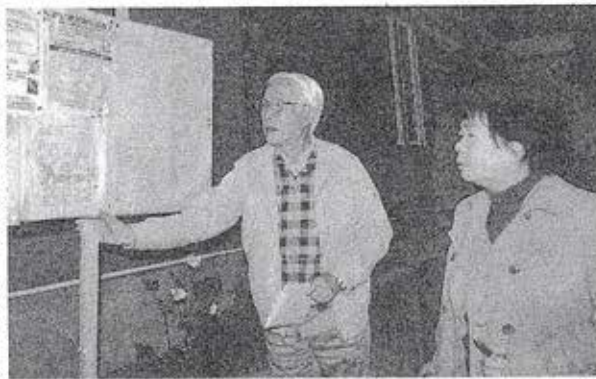
幌市清田区の吉岡弘子さん(67)。日本共産党の市議候補です。北海道地震の発生後、地域の党支部と一緒に区内約600世帯の被災者の声を聞き、市にかけあい、前進するとそれを伝え、また要望を聞いています。

被災者の声聞き

道路の陥没で甚大な被害が出た里塚地域。あるシングルマザーは「市が動いてくれません。子どもが来年少学校に上がるので、それまでに帰ってきたい」と涙ながらに語りました。「一緒に涙しました。聞けば聞くほど怒りがこみ上げてくる。市の対応はあまりに冷たすぎます。被災して困っている人に手を差し伸べ

井戸端会議に顔をのぞかせるかのように市民の元へせつせと足を運ぶ札

情報を伝える会報を見る盛田会長と吉岡さん(右) 札幌市清田区



ない市は市民の『奉仕者』に立っていません」と吉岡さん。
清田地区に借家で暮らしていた男性は「大家さ

「元気出ました」と男性

い」と肩を落とします。対話するうちに男性は「吉岡さんと話して少し元気が出ました。他の政党は地震の後どころ来ない。共産党が私たちのために動いていることはよく知っています」といいます。「これから選挙は全面的に応援します」。清田地区の女性は、最初の訪問で「一部損壊」とされましたが、家が傾いていて、階段を上り下りしていたら具合が悪くなる」と話していました。2度目の訪問では「7年前に改築し、もう家に何百万円もつき込む力はない。具合が悪くなるので親戚の家に行くが、バスに乗るとまた具合が悪くなる」とふさぎ込みます。

再建支援が前進

前進がありました。「一部損壊」と判定された家屋の再建支援に国の「耐震化促進事業」が活用できると、国土交通省が日本共産党9・6北海道地震対策本部の扁山和也事務局長(前衆院議員)に連絡。「市町村が(耐震リフォーム補助制度などの中で)補助内容を定めれば助成できる」と回答しました。

者と市民と私たちが手を携えてすすめた運動の成果です。諦めずに突破していくことが大事だと痛感しました」といいます。「個人で問い合わせしても、答えてもらえないことが多い」と語るのは、里塚地域の住民が立ち上げた市や道に要望する「里塚中央災害復興委員会」(10月4日結成)の盛田久夫会長(里塚中央町内会会長)です。「一生の声を聞いてもらうのが一番。役所の机上で考えるより現場を見てほしい。熊本地震では市長が決断し、国に支援を求めた。札幌市も住民の負担が少しでも減るよう動いてほしい」と強調しました。(北海道・熊林未来)